

坪井の里に住む産婆の  
苦楽を描いた物語

## 坪井宿 [津山市坪井下]

ひさが住む坪井の在所から程近い、出雲街道の宿駅である坪井宿と久世宿。公用の旅行者を泊める御用宿から、他国の商人を泊める他国商人宿、通りがかりの旅人を泊める旅籠屋と、様々な客層に合わせた多種多様な宿が軒を連ねている。



坪井宿の町並み

坪井宿は、津山から三里半(約1.4km)程の距離にある。津山を発した出雲街道は、院庄から吉井川を渡り、中須賀・領家(茶屋)・千代・坪井と久米町内を経て真庭郡落合町へ通じているが、その宿場跡として唯一町内に残っている場所が坪井宿である。本格的に整備が行われたのは、森忠政が美作国主として作州に入封した慶長8年(1603)以降といわれ、以後、街道の整備や交通量の増大にともない、陰陽交通の要として宿場機能の充実がはかられていったと考えられている。さらに、元禄10年(1697)森氏廃絶ののちは一時幕府領となったことにより、幕府の代官所が宿場内に置かれたため、以後は宿場町であるとともに、政治的な機能をも併せもつこととなった。

「坪井宿立看板 久米町教育委員会」説明文より

## 鶴坂神社 [津山市坪井下]



本神社は往古から久米郡北部の産土神として尊崇篤く、美作国112社の1社である。

「岡山県神社庁」HPより

坪井宿の西の外れにある鶴坂神社に参集した産婆のひさ、久世の茶屋の店主いっ、坪井宿の旅籠の女中であるみや、香々美の山立の妻であるとよの四人は葬式が行われている町屋へと向かう。

写真提供：「津山瓦版」

泣き女とは、葬式を取り仕切るものたちに雇われて、玄関口や門の前に座り、故人を泣いて送り出すものたちのことを指す。…

三合泣きから三升泣きまで、喪主の懐事情に合わせて様々な泣きかたを想定しており、一升を下回るならさほど泣かず啜り泣き程度、二升を超えれば野辺送りの列に加わって泣きながら墓場まで出張る。三升ともなれば遺族が家に戻るまでついて回る事となっている。

竹久夢二の幼少時代を描いた物語

夢二郷土美術館・夢二生家記念館〔邑久町〕

「船の乗り場で、旦那さんも待つとられますけえなあ」  
 旦那さんとは茂次郎の父菊蔵のことであった。菊蔵は岡山県邑久郡本庄で酒の取次販売業を営んでいた。茂次郎は菊蔵の商用に付き添って岡山に来ていた。尋常小学校は夏の休みだった。



夢二が生まれ育った、茅葺き屋根の古民家

有島生馬氏による“夢二ここに生る”の碑が門側に建つ、築約250年の家屋を作品と共に公開。夢二は数え16歳で神戸中学に進学するまで、ここで家族と暮らしていました。夢二が嫁いで行く姉を思い、窓枠に書いた鏡文字が残ることも部屋をはじめ、奥の間や土蔵なども展示室として拡充。《童子》など、ふるさとをテーマにした所蔵作品を、季節ごとに展示しています。  
 「夢二郷土美術館パンフレット」より

宵待草の歌碑〔邑久町〕



夢二生家近くに建つ歌碑

「待てど暮らせど来ぬ人を  
 宵まち草のゆる瀬なさを  
 今よひは月も出ぬさうな  
 夢二」



宵待草ともゆうんじゃあでえ  
 えっ? 「女が目を開いて茂次郎を見た。  
 月見草は、難しい呼び方をしたら、宵待草なんじゃって」  
 茂次郎は目尻を張った。  
 宵待草? 「茂次郎はまた恥ずかしそうに俯いた。  
 宵され(夜)を待って咲くけん、宵待草なんじゃって  
 そうなの」

竹久夢二について

岡山出身の竹久夢二(本名茂次郎1884-1934)は、大正浪漫を代表する詩人画家で、郷愁の想いを胸に心の学で独特の世界観と画風をつくりあげ、夢二式美人と称される抒情的な美人画家で知られています。画家であるとともに詩人、またデザイナーやイラストレーターとしても多彩に活躍した時代の先駆者です。

「夢二郷土美術館パンフレット」より



夢二郷土美術館

心に病を抱えた女性の魂の再生物語

東山〔岡山市中区〕

岡山駅で新幹線を降り、駅の東口から東山行の路面電車に飛び乗った。電車は大通りを後楽園の方にしばらく進むと、シンフォニーホールの前を直角に曲がって城下筋を南下し、昔の山陽道に沿うように旭川を渡った。・・・電車を東山の終点で降り、南に向かって十分ほど歩くと、なだらかな丘の上に大きな桜の樹が見えた。



JR岡山駅前から東山ゆき路面電車に乗って、終着駅の「東山」で降りたら、目の前にある坂の上が東山公園。公園の中には噴水や広いグラウンドや遊具があります。この公園へ登る石段の階段を上がり、振り返ると昭和の雰囲気が残る風景が見渡せます。

岡山市HPより

2021年5月撮影

戦災供養塔〔岡山市北区門田本町〕

近くにある戦災死者供養塔と原爆被爆死没者供養塔にも、必ずお参りをした。昭和二十年六月二十九日の未明午前二時四三分から四時七分にかけて、アメリカ軍のB29爆撃機一三八機が岡山市の中心部を無差別に爆撃した。



岡山市戦災死者供養塔

昭和20年8月6日の広島市、同9日の長崎市での被爆者の霊を供養するために「岡山市原爆被爆者会」により、昭和51年8月に建立されました。



岡山市原爆被爆死没者供養塔

岡山空襲の戦災犠牲者1,737柱の霊を供養するため、昭和30年6月29日に建立されました。

2025年2月撮影

岡山市HPより

恵子さんと一緒に野菜の虫取りをしていたときのことだ。「蝶々たちを見ていると、鬼ごっこをしているように見えたり、おしゃべりをしているように見えたりするでしょう。私にはね、空襲で死んでしまった子どもたちが、蝶になってこの庭に遊びに来ているように思えてならないの。この庭でも、空襲から逃げて来た人たちが大勢亡くなったそうよ。・・・」